Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.14(2017 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

（ここで紹介するのは新しい本の一部です。）

『西郷隆盛　維新 150 年目の真実』　家近　良樹

有名な「上野の西郷像」の除幕式に参加した西郷夫人は「ちっとも似とらん。」とボヤいたそうです。（実際には像よりずっと美男子だったとも言われています。）ただしあの西郷像は犬を連れていますが、「無類の犬好き」だったことは間違いないようで、時にはウナギ丼（！）まで与える可愛がりようで、その結果、猟犬には適さないほど肥満化させてしまったというトホホな逸話もあります。本書は、こうした「西郷どん」の実像に、幕末の専門家である筆者が多様な角度から迫ります。

『歴史を変えた誤訳』　鳥飼玖美子

もし「黙殺する」というたった１語を ignore と英訳しなければ、広島や長崎に原爆が落とされることはなかったかもしれない・・・テレビの英会話番組などでもおなじみの通訳者・鳥飼氏が、歴史を変えるほどの翻訳の力について、興味深いエピソードを話してくれます。あえて「白足袋（白い昔風の靴下）」を white gloves（白い手袋）と訳したのが、「誤訳」どころか「名訳」と呼ばれたそのわけは？

『子どもの脳を傷つける親たち』　友田　明美

あなたは小学生低学年までの子どもの頃に、親などから体罰や人格を否定する言葉（「あなたはダメな子だ。」など）を受けたことは、ありませんか？あるいは、両親の夫婦げんかを目にしたことはなかったですか？もしあるなら、あなたの脳の一部は、ダメージを受けている恐れがあるそうです。強いダメージならば、心の病気にもつながりかねないそうですが、治療法はあるとのこと。この本は、小児精神科医の筆者が自身の子育ての経験も踏まえて書いたもので、子育てや幼児教育に関心のある人は必読でしょう。

『富士山の謎をさぐる』日本大学文理学部地球システム科学教室編

「いつ噴火してもおかしくない」（本書 38 ページ）と言われている富士山。平均すると 30 年に一度の割合で噴火しているのに、この 300 年以上も噴火していないのは気になりますね。本書は、その前回爆発(1707)の詳しい説明をはじめ、富士山という巨大な活火山のしくみについて丁寧に解説してくれます。

『都道府県格差』　橘木　俊詔

日本総合研究所が発表した「幸福度ランキング 2016 年版」で総合 1 位になった県を知っていますか？答は福井県。（ちなみに兵庫は 31 位）北陸の田舎、というイメージを持っている人からすれば意外な結果ではないでしょうか。福井は、正社員比率・持ち家比率・待機児童の少なさなどに秀でており、住みやすい県と評価されました。この本は、「学力」「健康」「スポーツ」「生活」など様々な角度から、47 都道府県の「格差」を浮き彫りにしています。色んなことを考えるヒントが、見つかる本です。

『ふたご』　藤崎　彩織

人気の４人組バンド「SEKAI NO OWARI」、通称「セカオワ」の紅一点の作者が、はじめて執筆した小説ということで、知る人ぞ知る話題作となっています。「後書き」によれば、「セカオワ」のボーカルの深瀬氏から「小説を書いてみないか。」と勧められたのが、この作品を書き始めたきっかけだそうです。しかし思うように執筆ははかどらず、５年の歳月をかけてやっと完成したみたいです。ちなみに今回の直木賞の候補作となっていました。惜しくも受賞は逃しましたが。

『ブレードランナー　究極読本　＆近未来 SF 映画の世界』　中子　真治　監修

３５年ぶりに続編が公開された映画『ブレードランナー』。前作は映画監督などの「映画のプロ」が選んだ「SF 映画ベスト 100」で堂々の２位をとった(2014 年)伝説の名作です。その続編を記念して作られた本書は、まさに『ブレードランナー』のファンなら狂喜する（？）ような趣味性の強い内容で、映画で使われる架空の武器「ブラスター」について、巻頭いきなり２０ページ以上にもわたって特集されています。（しかも豊富なカラー写真つき。）ほかにも、映画の「聖地」めぐりや「空飛ぶ未来カー」についてのマニアックな特集などがあり、またストーリー解説や俳優たちのトリビアといった「鉄板ネタ」も中にはあります。原作の**フィリップ・K・ディックの『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』**も図書館にありますので、この機会にぜひどうぞ。

好評だった『陸王』の小説本、入りました！

最終回の視聴率が 20%を超えるなど、昨年話題だったテレビドラマの原作本です。おなじみの人気作家・池井戸潤が、業績の悪化した老舗の足袋製造会社が再建していくさまを、リアルに描きます。

今号のひとこと

命もいらず、名もいらず、官位も金もいらぬ人は、仕末に困るもの也。この仕末に困る人ならでは、艱難を共にして国家の大業は成し得られぬなり。

西郷隆盛（1828-1877）

「命もいらないし、ましてや世俗的な幸福も必要ない、という人は、どうにも扱いにくい人だ。しかしそういう人とでなければ、苦しみや困難を共有して得られる国家の大事業は達成できない。」

今年の NHK 大河ドラマの主人公・「西郷どん」が残した言葉です。西郷は軍人でしたが、教養も深く、名言を数多く残しています。